

2014年11月21日

【アピタルがん夜間学校】
もっと知ってほしいがんと感染症のこと
アンケート結果及びご寄付の報告

2014年11月19日（水）秋葉原UDXシアターにて開催されました表題セミナーのアンケート結果を、ご報告申し上げます。95名の方にお申し込み頂き、当日は60名の方が参加され、うち、45名の方からご意見を頂きました。（回収率75.0%）。

頂きましたコメントは、判読が難しいもの、表記が適切でないものも含め、原則全て記載し紹介しています。

当セミナーにて参加者の方々から頂きましたご寄付は9,000円です。頂きましたご寄付はCNJのがん啓発活動などを運営する資金に充てさせて頂きます。皆様のサポートに心から感謝いたします。ありがとうございます。

（1）今回のセミナーはどのような媒体でお知りになりましたか？

① CNJのホームページ（ブログ）などのイベント告知	26.7%
② キャンサーチャンネルのイベント告知	8.9%
③ UDXオープンカレッジのイベント告知	4.4%
④ 朝日新聞・アピタルの告知	6.7%
⑤ Twitter facebook等のSNS(RT,シェアを含む)	8.9%
⑥ CNJ以外の患者会・支援団体からのお知らせ	2.2%
⑦ 友人・知人に誘われて	6.7%
⑧ 新聞・雑誌などマスメディアの告知	2.2%
⑨ 病院でのポスター告知など	28.9%
⑩ その他（チラシ・社内告知・健康センターのポスターなど）	6.7%
無記入	0.0%

（2）あなたのお立場に○印をお願いします。

① 患者（治療開始前）	0.0%
（通院治療中）	13.3%
（治療後フォロー中5年以内）	13.3%
（治療後5年以上経過）	2.2%
（無記入）	6.7%
② 患者の家族・友人	22.2%

③ 医療関係者（医師）	0.0%
（看護師）	13.3%
（薬剤師）	4.4%
（その他）	2.2%
（無記入）	2.2%
④ 製薬・医療機器・メディア関係	8.9%
⑤ その他（保険会社など）	8.9%
無記入	2.2%

（3）プログラムに関するご感想を教えてください。

■ 基調講演①：荒岡 秀樹先生「もっと知ってほしい がんと感染症のこと」

① 大変参考になった	44.4%
② 参考になった	48.9%
③ 参考にならなかった	0.0%
④ どちらとも言えない	0.0%
無記入	6.7%

■ Q&A トークセッション

① 大変参考になった	31.1%
② 参考になった	46.7%
③ 参考にならなかった	0.0%
④ どちらとも言えない	0.0%
無記入	22.2%

（4）治療に関する情報はどのような媒体で入手しましたか？患者さん・ご家族以外の方は、どのような媒体で入手すると思いますか？（複数回答可）

① 医療者（医師・看護師・薬剤師など）	25	55.6%
② 書籍	21	46.7%
③ インターネット	30	66.7%
④ 同じ病気の患者	7	15.6%
⑤ がん患者会	2	4.4%
⑥ 患者団体・患者支援団体	2	4.4%
⑦ 病院の相談窓口	4	8.9%
⑧ NPO などの相談窓口	2	4.4%
⑨ その他（）	2	4.4%
無記入	3	6.7%

（5）インターネットで情報を収集する際、どんなことに気をつけていますか？

(複数回答可)

① 誰が書いているか、明示されている	23	51.1%
② 情報の出典が明記されている	27	60.0%
③ 情報の更新日が明記されている	20	44.4%
④ 情報発信の目的(営利・非営利)が明確にされている	13	28.9%
⑤ その他	1	2.2%
無記入	3	6.7%

(6) 治療を受けるにあたって、どのような情報が必要でしたか?患者さん・ご家族以外の方は、どのような情報が必要だと思いますか?(複数回答可)

① 施設情報(病院など)	23	51.1%
② 医師情報(専門医など)	22	48.9%
③ 治療法の情報	37	82.2%
④ 薬剤に関する情報	22	48.9%
⑤ 治療以外(心の問題など)の相談窓口	11	24.4%
⑥ 医療費に関する情報	14	31.1%
⑦ 同じ病気の体験談	11	24.4%
⑧ その他(知識・予防について)	2	4.4%
無記入	1	2.2%

(7) がん対策を進める上で、どの領域がもっと重要だと思いますか?

① がんの予防の推進	35.6%
② がんの検診の推進	40.0%
③ がん治療(研究)の推進	46.7%
④ 治療後の社会的支援	31.1%
⑤ その他	8.9%
無記入	2.2%

*その他詳細:

- 先進医療の保険診療化。
- 若年性がん、老齡がんで高齢者対策が本当に社会に貢献しているのか疑問です。
- がんの症状などの啓蒙(ほっておかないこと)気づくこと。
- がんの薬が副作用のないからだに優しい効くものを作って下さい。

(8) がん治療をよくする上で、患者(患者会・支援団体)の役割は重要だと思いますか?

① 強く思う	48.9%
② 思う	28.9%
③ 思わない	0.0%
④ どちらとも言えない	15.6%

無記入	6.7%
-----	------

(9) もっとも、キャンサーネットジャパンに期待する活動は何ですか？

① がん患者（家族）向けセミナー・イベントなど	53.3%
② がん患者（家族）向け教育プログラムなど	22.2%
③ がん患者（家族）を含めた一般の人へのがん疾患啓発事業	24.4%
④ 体験者同士のピアサポートプログラムなど	15.6%
⑤ がん医療政策提言などのロビー活動	6.7%
無記入	8.9%

～今回のセミナーで新たに得られた情報はありますか？～

【患者】

（通院治療中）

- ・好中球の減少を防ぐ努力しても防ぎようがないことを知った。
- ・手術前に知りたかったです。

（治療後フォロー5年以内）

- ・好中球の数が大事（気にする）とはあまり思ってなかった。
- ・発熱していない（少ない）感染症もあること。先生が毎回全て観察できるわけではないので、患者からのアピール（共同作業）の大切ということ。
- ・好中球、脾臓の役割。

（無記入）

- ・発熱性好中球減少症について。

【患者の家族・友人】

- ・丁寧なご説明でよくわかりました。検査と治療の順序の関係など。
- ・感染が最近メディアで取り上げられるので、とても興味があり、がんとの関連性がわかりやすかった。
- ・感染症の予防について詳しく教えていただけたので、良かったです。

【医療従事者】

（看護師）

- ・各系統の感染症と疑える症状について。
- ・発熱性好中球減少症が診断名ではないということ。
- ・なぜがん患者が感染症になりやすいのかということ。

【製薬・医療機器・メディア関係】

- ・感染症医の存在、役割を知ったこと。口腔ケアの重要性。

【その他】

- がん治療において感染症予防の大切さ。

～もっと知りたい情報は何か？～

【患者】

(通院治療中)

- いつも不安を感じている。もっとよい方法（治療）があるのではないかといつも探しています。

(治療後フォロー5年以内)

- がん患者の治療中、治療後の身体の変化や生活の変化など。例えば、失った部位によっての変化なども知りたいです。
- 食道がんの最新治療のことと治療の進歩。

【患者の家族・友人】

- (末期) がんと発熱の関係。
- 好中球を増やすことのできる方法。(ライフスタイルや食事、薬剤など)

【医療従事者】

(看護師)

- がん患者さんに多い、感染症について知りたい。

(その他)

- 治療後の社会的支援、特に就職に関して。

【製薬・医療機器・メディア関係】

- がん統計の中に占める他病死の構成。特にがんで誘導された他病死はどの程度あるのか？
感染症、敗血症はどの程度、他病死を占めるのか？

【その他】

- がん治療にともなう家族の負担。

～その他、セミナーに参加してのご感想・ご意見等～

【患者】

(通院治療中)

- いつも出席して得られる点があるので大変助かっています。

(治療後フォロー5年以内)

- ゆっくり丁寧に説明して下さいましたので、感染症のことがよく理解出来ました。ありがとうございました。
- 重要な役に立つ情報を無料でお聞かせ頂くことに感謝しております。
- 今までの講演、Q&Aの要点をまとめた本が出来れば購入したいと思います。

【患者の家族】

- とても分かりやすかったです。次回も参加したいと思いました。

【医療従事者】

(看護師)

- 今日、解答してもらえなかった質問に対して後日答えて頂けると嬉しいです。
- 荒岡先生の講義での語り方、説明のされ方はとても理解しやすかったと思いました。自分は看護師なので、もちろん、周知していることなのですが。今、働いている診療所でもがんの治療を受けながら慢患（HT、DMなど）で通院されている方々も多くいらっしゃるので、今日、拝聴したことをお伝えしていけたらと思いました。ありがとうございました。特に症状の項目で、背部痛→尿路感染症の疑いというお話があったのは、「おお！なるほど！」と思いました。（不勉強なのですみません）
- 医療者向けではなく、一般向けの説明だったので、わかりやすく理解することができました。とても貴重な話が聞けました。ありがとうございました。

(薬剤師)

- 病院勤務でない薬剤師は、虎の門病院などがん患者さんが多い病院の前の薬局でも薬を渡すだけで知らないことも多いし、聞いていいのかなと、病気のことや副作用のことについて質問するのは消極的です。もっと積極的に聞けるよう（質問できる様）知識を増やすだけでなく、患者さんや先生の話がたくさん様々に聞ける機会が増えれば良いと思っています。